

上毛町の良品を直売所から発信する仕組みづくり

上毛町地域活性化協議会（築上郡上毛町）

【地域協議会構成団体】 道の駅しんよしみ、さわやか市大平（直売所）、上毛町商工会、JA福岡京築、上毛町（事務局）

1. 将来ビジョンの作成

策定年月：平成28年3月

- ・直売所等の役員会で検討し作成した。直売所や道の駅へ配付し、周知した。



2. 将来ビジョン達成のための取組

I 農林業を守る

- ・新規就農者・後継者の育成：京築地域農業・農村活性化協議会と共催により、営農相談会を開催。参入条件がまとまらなかったため、新規就農には至らなかった。
- ・農林産物生産体制の整備：地域特産の川底柿の干し柿の試作を行うとともに、新パッケージを作成。福岡市の岩田屋でH31年2月に試作品を販売を行い、74個販売出来た。今後は首都圏への販路拡大やふるさと納税への活用を検討したい。

II 農林業の所得や雇用を増やす

- ・レモン生産者の育成：新たな農産物により農業者の所得向上を図るため、レモンの作付を推進。これまでに栽培希望者にレモン苗を800本、約20名（30a）に配布。レモンの出荷は平成31年度からの見込。
- ・農林産物の付加価値創出：柿の販売期間延長のために冷蔵柿の販売に取り組んだが、H29は青果での販売が好調であったため、冷蔵柿は減少。（冷蔵柿出荷者：H28 3名→H29 1名→H30 1名）

III 地域の人口を増やす

- ・イベント等の開催：秋の収穫祭のイベントとして上毛町「うまいお米グランプリ」を開催。受賞米をPR用米としてイベント景品やふるさと納税の返礼品として活用。また、同日に川底柿グランプリを開催。入賞者の川底柿を試食用として活用し、集客数を増やした。



【冷蔵柿の販売】



【上毛町「うまいお米グランプリ」】



【干し柿の試作】



【川底柿グランプリ】



3. 今後の展望

- ・新たな地域特産品として期待の高いレモンは、現在育成途中。このため、出荷に向けて適正に管理していく必要があり、普及指導センターなどの協力が不可欠。また、レモンの青果及び加工用の販売先を確保する必要がある。また、上毛町産としてのPRが不足しているため、メディアを通じた情報発信に努める。
- ・冷蔵柿及び干し柿の取り組みについて、特産品としての販売や生産者の所得拡大が見込めるが、干し柿の品質向上及び生産量の確保が課題である。
- ・各種イベント開催により、地域の魅力を発信して交流人口を増やしていくとともに、イベント開催時に空き家情報の発信も行い、定住者の確保に努める。